

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】 原 将也

【所属】(助成決定時) 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻

【研究題目】

植民地期アフリカにおける伝統的権威を主体とした地域開発と民族境界の生成

【研究の目的】(400字程度)

本研究では、植民地期のアフリカにおいて、植民地政府がおこなっていた地域開発に着目し、伝統的権威であるチーフの権力が強化され、民族領域の明確な境界が生成された過程を明らかにすることを目的としている。本研究で取り上げた北ローデシア(現在のザンビア)は、イギリスによって間接統治され、各民族のチーフに対して地方行政が委譲されていた。ザンビアには73の民族が存在するといわれるが、すべての民族が集権的な統治制度を保持するわけではなく、間接統治を進める植民地政府によって、チーフが選出された地域も多い。こうした植民地政策のもと、チーフの権力が強化されて地域開発がおこなわれ、地域と民族をより強固に結びつけられ、民族領域が明確となっていった。本研究では、植民地政府が実施した地域開発を検討し、チーフの権力と裁量に着目し、チーフによる地域開発や地方行政のなかで明確になった民族領域の境界地域において、異なる民族が受容された可能性について考察している。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究では植民地政策に着目し、チーフを主体とした地域開発のなかで、チーフの権力が強化され、明確な民族境界が生成されたことを検証するため、おもに植民地政府や行政官が残した史料を収集し分析した。ザンビア・ルサカにあるザンビア国立公文書館において、植民地行政官が記録したザンビア北西部州のツアーレポートを中心に行政文書の収集をおこなった。

当時、北ローデシアを統治していたイギリス南アフリカ会社(British South Africa Company: BSAC)が、カオンデのチーフ18人それぞれが治める領域を定めたと報告されている。またカオンデのチーフはもともとクランの長であり、カオンデ全体をまとめるパラマウント・チーフは存在しない。しかし1944年に、植民地政府が他の民族の統治構造を参考にして、カオンデを代表するシニア・チーフを任命していることがわかった。植民地政府がシニア・チーフを任命し、カオンデのチーフを管理していたことが想像できる。植民地政府は、カオンデのチーフに対して給与を支払っており、チーフたちは植民地行政の一端を担っていたことが明らかとなった。植民地期以降にザンビア北西部でおこなわれた地域開発においても、チーフが一端を担い、住民の再定住化を進めていた。

ザンビア北西部では、伝統的権威に対して聞き取り調査をおこなった。おもに地区長に対して、ライフヒストリーを聞き取る形式をとった。ルバレのチーフ領に接するカオンデのチーフ領では、1940年代よりカオンデ以外の民族の移入がみられていた。要因はそれぞれ異なっているが、みな最終的にはカオンデのチーフに接見し、移住と村の創設の許可を得ていた。チーフが地方行政をおこなうことで、チーフ個人の裁量によって移住や村の創設が許可されている。カオンデのチーフは、民族にかかわらず困っている移入希望者を受け入れていたこともあり、民族領域の境界において、複数の民族が混住する地域がつけられることになった。

イギリス・ロンドンのイギリス王立公文書館では、植民地政府によるチーフの任命や管理に関する公文書の収集をおこなった。1954年に植民地政府より発行された伝統的チーフの一覧リストを入手することができた。多くのチーフが民族ごとに任命されている一方で、少数のチーフについては、複数の民族を統治していたことがわかった。またチーフが人头税や家屋税を徴収する役割を担っており、植民地政府によって細かく

税徴収の範囲が決められていたことも明らかとなった。

【結論・考察】（４００字程度）

本研究では、おもにザンビア北西部を対象とし、植民地政策のもと権力が強化されたチーフを主体とした地域開発に着目し、植民地政府とチーフの関係性、チーフの権限が強化された過程、チーフによる地域開発の実態と民族領域の画定、民族領域の境界地域における他民族の移入経緯とチーフの裁量について明らかにすることができた。チーフが植民地政府によって任命され管理されることで、チーフは植民地政策の一端を担っていた。地域内におけるチーフの権限は、実質的に強化され、地域開発や地方行政にはチーフの意向が反映されている。民族領域の境界では、チーフの裁量によって異なる民族の移入者が受け入れられ、村を創設していることが明らかとなった。間接統治のもとチーフの権限が強化されたことで、チーフ個人の意向が行政に反映され、複数の民族が暮らす地域が形成されたことがわかった。

ザンビアでは植民地期以降、現在にいたるまで、チーフが地方行政や地域開発を担っている。近年ではチーフを中心とした地方分権化が進められており、現在のザンビアの農村部の動向を捉えるうえでも、植民地期に確立された行政におけるチーフの位置づけを検討することは重要である。今後は現在の地方行政の動向とあわせて伝統的権威の役割について検討していきたい。